

2024.1.20（土）追求の授業をつくる会 合同例会

追求的な学習能力を育てる学級づくり

—戸田先生の学級づくりから学ぶ—

福島 松山 豊

学級づくりの重要性

VTR①

同じ子どもたち、学級4月最初の姿

国語（「白いぼうし」の授業）戸田淳子先生
4年生 1989年4月6日

白いぼうし

あまんきみこ

「これは、レモンのおいですか。」

ほりばたで乗せたお客のしんしが、話しかけました。

「いいえ、夏みかんですよ。」

（中略）

「ほう、夏みかんでのは、こんなにおうのですか。」

「もぎたてなのです。」

戸田学級の子どもたち 3月

国語（詩「ひばりのす」の授業）戸田淳子先生
4年生 1990年3月14日

ひばりのす

木下夕爾

ひばりのす

みつけた

まだたれも知らない

あそこだ

水車小屋のわき

しんりょうしよの赤い屋根のみえる

あのむぎばたけだ

小さいたまごが

五つならんでいる

まだたれにもいわない

4月最初の
子どもたち・学級
学習能力なし

学級づくり

3月の
子どもたち・学級
学習能力あり

- ①学級づくりは、教師（学級担任）の重要な仕事である。
- ②学級づくりは、授業によってできる。
- ③学級づくりは、闘いである。
- ④学級づくりは、**追求的な学習能力**を育てることである。

①学級づくりは、教師（学級担任）の重要な仕事である。

ヴィゴツキー『教育心理学講義』

教育は、生徒自身の経験を通して実現される。その経験は完全に環境によって決定されるのであり、そこでの教師の役割は、環境を組織すること、規制することである。

〈経験〉 話し合うこと。議論すること。

〈環境〉 (追求的な学習能力を備えた)学級

②学級づくりは、授業によってできる。

斎藤喜博『心の窓をひらいて』

すぐれた「学級づくり」は、そういう(=きびしい追求がある)実践のなかから生まれてくる。授業をだいにし、授業のなかで、それぞれが自分の持っているものを出し合いながら、お互いに、きびしく、一人ひとりを、また、学級全体を、つぎつぎと変革していくような仕事をしてはじめて「学級づくり」はできてくる。

③学級づくりは、闘いである。

宮坂義彦「子どもたちに人間としての力を発揮させる。」

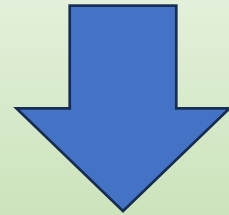
自分の声を出さない、しっかり立たない、話を聞かない等、人生の中で人間としてやらなければならないことの半分もやらないで毎日を過ごさせてはいけない。そういうことから逃げてきた子どもたちの意識を変えなければならないし、同時に、やらさないで過ごさせてきた教師の姿勢を反省しなければならない。そのためには、教師は妥協せず、子どもに要求していかなければならない。それは闘いである。

④学級づくりは、**追求的な学習能力**を育てることである。

戸田淳子「自分をのびのび表現する子を目指して」

私は、授業そのものが学級経営だと考えている。

自分の考えを変えていくきっかけは、友だちの考えである。
したがって、学級で自分の考えを表現することと、友だちの
発言をきちんと聞いて、自分の考えを変えるのに生かすこと
が最重要だと考えている。



追求的な学習能力
(コミュニケーション能力)

「追求的な学習能力」とは何か。

宮坂義彦「やまなし」より

(戸田学級の) 子どもたちは他の子どもの発言に対して、いつでも自分の意見をもつ習慣を身につけています。これを私たちは主体性と呼んでいます。さらに友だちの意見を聞いて、自他の差異に着目する習慣を身につけ(聴取性)、それを他の子どもに向かって表明する習慣(表明性)も身につけています。

宮坂義彦「坂田論文が示唆するもの」より

戸田学級の原点＝随意的注意（ヴィゴツキー）

教材に対して

教師に対して

友だちの発言に対して

} 有意味な情報を分析・抽出し
印をつける能力

追求的な学習能力 とは何か

追求的な 学習能力

コミュニケーション能力

- ①自分の意見をもつ力（主体性）
- ②自分の意見を表明する力（表明性）
- ③他者の意見を聴く力（聴取性）

注意の集中力 （随意的注意）

注意を本質（問題・教材・教師・友だち）
に向ける力

追求的な学習能力育成の実際

戸田先生の授業に学ぶ

教材「白いぼうし」

4月6日(新学期初日)、7日(二日目)

主体性（自分の意見をもつ）

- ① 問題に対する主体性（問題に注意を集中して意見をもつ）
対立問題→選択→挙手 「わからない」と表明 V T R ②
- ② 教材に対する主体性（教材に注意を集中して意見をもつ）
教材に即している（証拠のある）意見 V T R ③
「変だ、おかしい」「気になる」言葉・文からの疑問、問題
- ③ 教師に対する主体性（教師に注意を集中して意見をもつ）
発問→挙手にかかわらず指名
- ④ 友だちに対する主体性（友だちに注意を集中して意見をもつ）
友だちの意見→いいか悪いか（賛成か反対か）表明 V T R ④

表明性（自分の意見を表明する）

- ① まちがいへの警戒心(自発的発言をためらう原因)を解く。

× 正否で判定

V T R ⑤

○ 追求する「問題」や「対立問題」に変え、活かす

- ② 発言しやすい問いを出し、必ず意見を言わせる。

あきらめない あらゆる方法を使って発言を引き出す

- ③ 自発的発言を勧め、評価する。

決断をせまる

V T R ⑥

自発的な発言、不十分でも発言しようとしたことを評価

聴取性（他者の意見を聴く）

友だちへの注意の集中

- ① 友だちの意見との違いを聴き取り、表明する。
- ② 発言者を助ける構えをもって聴く。
- ③ 「見る」「おぼえる」「反応する」「質問する」
「教師も反応」

V T R ⑦

追求的な学習能力を習得した子どもたち

国語（詩「ひばりのす」の授業）戸田淳子先生

4年生 1990年3月14日

V T R ⑧

ひばりのす

木下夕爾

ひばりのす

みつけた

まだたれも知らない

あそこだ

水車小屋のわき

しんりょうしょうの赤い屋根のみえる
あのむぎばたけだ

小さいたまごが

五つならんでいる

まだたれにもいわない